

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	時代を生きる人と、ともに歩む看護職として
別タイトル	Nursing care for people living in a rapidly changing society
作成者（著者）	福島, 富士子
公開者	東邦看護学会
発行日	2020.03.01
ISSN	21855757
掲載情報	東邦看護学会誌. 17(2).
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD07344973

時代を生きる人と、ともに歩む看護職として

Nursing care for people living in a rapidly changing society

東邦看護学会 理事長

福島 富士子

現在は、個人のライフスタイルの多様化、医療の発展など、人の健康を取り巻く状況は日々刻々と変化しています。そのような変化の中、看護職への期待がさらに大きくなっています。看護職は、人の生涯を通じて、ニーズに応える専門職です。特に、対象者が自ら方法を選択、決定をすることを手助けし、その際には、その人とその家族をサポートするための、能力を持ったパートナーとなります。また、その道のりをともに歩むガイドともなります。看護職は、能力を持つパートナーとなるための知識、技術、ともに歩むガイドとなるための責任という資質を持つことが必要とされ、そのためには、自律性のある専門活動を維持、向上し、自ら研鑽し、看護職として資質を高める責務があります。

前段が長くなりましたが、個人がいますぐにできる努力として、身近にある本、映画などとの出会いも自分自身の価値観を創造するために大いに役立つ方法です。一見、看護の専門性と直接関係がないと思えることも人間性を豊かにすることにつながります。多くの人と関わり、多くのことを経験し、人間性、感受性を高めていきたいと思えます。

日本だけではなく、世界中で、日々何かが起きています。毎日、新聞を読んでも、インターネットを利用して、ネット新聞もいいですね。その問題について口に出し、誰かと語る。また、日常の業務の中で気になる出来事を意識して、カンファレンスなどを通し、仲間や先輩と話し合い、図書やインターネットを活用して、その事柄を調べてみるのもいいですね。

研究と聞くと苦手意識を持っている方もいるかもしれませんが、まずは日常業務の中で「おかしいかな」と思うことが非常に重要なことです。一つひとつの事例を深く掘り下げることが、根拠に基づいた医療・看護へそして人間への理解へとつながります。

看護の専門継続教育としては、院内での研修、日本看護協会での研修、大学などが開催する研修・セミナーなどがあり、また大学院進学という選択もあります。

そして、職場組織は、職場自らが看護を発展させるために環境を整えることと、看護職個人の達成を支援するための環境を整えることが必要となります。必然的に、職場自体に学習しようとする向上心があれば、そこで働く人々は自己研鑽を積んでいくでしょう。

働く職場でも、新たな技術、思考、価値観を生成し、メンバーとともに看護の発展に寄与していくことが非常に重要なことです。組織がそのような態度をみせることで、個人へも学習の期待が伝わり、組織、個人ともに研鑽を積むことができます。職場として組織目標を掲げ、それをメンバーと共有することが大事だと思います。これはすでに実践されていることだと思います。

人対人である看護職の仕事は、一つの正解が準備されている仕事ではありません。もちろん最低限知っておくべきことは知識として頭に入れておくことは当然のことですが、日々の職場で経験する場面を事例として、その場面の現状や、それが起こった原因を理解し、次への解決方法を考えていくことで、メンバーが自分で考える力を養うことを導きたいと考えています。学習とキャリアアップが連動する職場を目指したいのです。そのために職場は、リーダーとなるメンバーと協力し、看護職が学習を続けられる機会を設けることを進めていきたいのです。

つらつらと述べてまいりましたが、この役割の一端でも東邦大学看護学会が果たせるよう、皆さんと協力し、魅力ある学会となるようにさらに努力してまいりたいと考えております。どうぞ今後ともますます、本学会に変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心からお願い申し上げます。